

日本伝統の「前掛け帆布」製造技術維持拡大 と個別受注型情報共有システムの構築

欧米を中心に日本の伝統的な前掛けの魅力が見直される中、技術継承が困難であった「帆前掛け」の専用シャトル織機を購入し、技術の継承及び商品開発に成功した。また、顧客の個別仕様オーダーに適切に対応できるよう、社内及び外注間の情報共有システムの構築を行った。

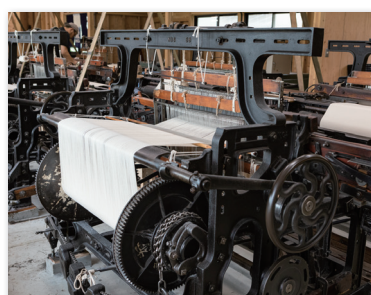


成功のポイント

私が目指したいのは、お母さんの手作りのおにぎり、職人さんが握ったお寿司のように、作った人のぬくもりが伝わるもので、それに共感してくれる方と一緒に仕事をしていきたいと思っています。よいものを残していきたいと思うと、世界のどこかで評価してもらえ、他に波及していきます。こうした大きな流れの中で、様々な人に助けていただき、豊橋工場をオープンすることができました。



代表取締役 西村和弘氏



埼玉県羽生市の小島染織工業と愛知県豊橋市の芳賀織布工場の機織職人芳賀氏の協力を得て技術を継承

企業名

有限会社エニシング

所在地

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-7-10 グランドメゾン元赤坂902

豊橋工場

〒441-3137 愛知県豊橋市大岩町西郷内167-2

電話番号

03-5843-0247

URL

<http://www.anything.ne.jp/>

代表者

西村和弘

資本金

300万円

従業員

8人

企業紹介

平成12年の創業当時は、海外からの観光客に向けて、漢字Tシャツを製造・販売していた。その後、日本の伝統である前掛けの魅力を再発見し、平成16年に帆前掛け商品を発売。平成17年に、帆前掛け専門店エニシングをオープンした。その後、国内の有名百貨店のみならず、ニューヨーク、バルセロナ、ロンドン等で前掛け展を開催。更に、大英博物館のミュージアムショップとの取引を開始するなど、欧米諸国での人気も高い。令和元年6月、愛知県豊橋市に前掛けファクトリーを創設。約100年前の国産織機を使い、ぬくもりのある前掛けを製造している。

取組みの内容

前掛けは、腰を守るという実用性と、屋号の広告を兼ね備え、世界的にも珍しい日本独自の文化である。だが、高度経済成長期に繊維産業はほとんどが中国に移管され、前掛けに使われる布地も大きく変化した。しかし、昭和30～40年代に作られていた厚みのある最高級「1号前掛け」は、手作りの温かみに満ち、残すべき日本の技術であるとともに、今こそ歓迎されるという予測から、やる気のある新人を採用して技術を承継した。製作しながらテストマーケティングを行い、手応えを感じて専用シャトル織機を導入、商標登録等の手続きを行い、現在、新工場の稼働と海外展開を進めている。



昔ながらの作り方しないと、厚くて柔らかい帆布は生み出せない



1回あたり600mを織ることができる



「この先30年、50年と使ってもらえる」という期待から、トヨタグループより寄贈

商品開発のポイントと課題

豊橋工場では合計9台の自動織機が並ぶ。最も古いものは大正6年に製造されたトヨタN式織機で、100年の歴史をもつ。動力も天井に取り付けた車輪を回転させ、そこにベルトで繋がるすべての織機を同時に動かすという昭和初期の手法そのままだ。そのため、品質を安定させるためには、日々の細かなメンテナンスや、四季を通じた動作確認が必要とされた。更に、染めにもこだわりを持ち、昔ながらの風合いを保ちつつ洗濯堅牢度も高い。また、顧客からのサイズや図柄の個別注文に対応し、正確にオーダー管理を行うために、社内・外注を繋ぐ個別受注型情報共有システムを構築した。

今後の展望

アメリカのジーンズブランドへの帆布の卸しや、世界的な発信力があるロンドンの雑貨店レイバーアンドウェイトで商品が取り扱われる等、世界的な広がりを見せている。また日本国内では、名入れできることから企業や学校法人が、海外の方へのお土産に活用し、喜ばれている。

特に、トヨタグループの創設者豊田佐吉翁が開発した自動織機が現役で動き続けることから、創業の精神を大切にするとトヨタグループをはじめ、円谷プロダクションやサンリオ、スタジオジブリなど日本を代表するキャラクターとのコラボレーションも進んでいる。